



# 下呂市農業委員会だより

平成26年10月1日発行

vol.5

下呂市農業委員会

下呂市萩原町萩原1856 TEL.0576-52-2000 <http://www.city.gero.lg.jp/>⇒行政情報⇒市政の情報⇒下呂市農業委員会

## 農地法の申請時には担当委員に説明を

農地の権利を移転するとき（売買や貸借）や、農地を他の用途に利用するとき（転用）もしくはその両方を同時に行うときは、農地法の許可申請が必要です。

その際、申請される方は担当地区の農業委員へ確実に申請内容と現地の説明をお願いします。



①申請内容を農業委員にご説明ください。（申請を必要とする理由、その土地を選んだ理由など）

②農業委員が現地確認し、申請書類のみでは把握しきれない現場での実情、周囲農地などの利用調和などを確認します。



## 農地法の申請から許可まで ～現地確認・説明を元に審議されます～



③①・②を基に、担当委員が農業委員会総会にて申請案件の説明を行い、委員会全体で協議し、許可、不許可を判断します。（※）

※内容により、このあと県に意見進達し、その決定を経る場合もあります。

## 農地の利用状況調査を行っています

9月から10月にかけて、農地法に基づき、農地の「利用状況調査」を行っています。調査は、市内の全農地について現時点での利用状況（耕作中・遊休化・非農地化）の把握を目的としています。

調査の結果については、取りまとめたものを次号のたよりでお知らせする予定です。また、遊休化した（するおそれのある）農地所有者の方には、耕作再開への方向性をお聞きする「利用意向調査」を行います。

かけがえない農地を守り、有効活用するため、みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。



期間中、緑色の腕章をつけた調査員が現地確認を行っています。また、車両には黄色で「農地パトロール実施中」の標識を掲げています。

## 農業委員の交代をお知らせします

団体推薦（飛騨農業協同組合理事）による選任委員でした大坪喜美子さんが、6月24日に農協理事の職を退かれたことに伴い、農業委員も退かれることとなりました。

また、新たな選任委員として、同じく飛騨農業協同組合理事の中川元宏さんを推薦いただき、委員会にお迎えしました。

大坪さんの担当地区でありました、萩原地域の尾崎3区・四美地区につきましてはそのまま中川委員が担当されます。

（全委員の地区一覧はたより上部の委員会HP内にて確認できます。）

## ～捕獲で圃穫～



8月下旬 なかなか掛からないサルサルの捕獲に成功しました。追い払い、柵、捕獲とセットで獣害に立ち向かいます。（山之口地区にて）

## 新しい農地の貸し借りの仕組み

# 農地中間管理事業がスタートしました



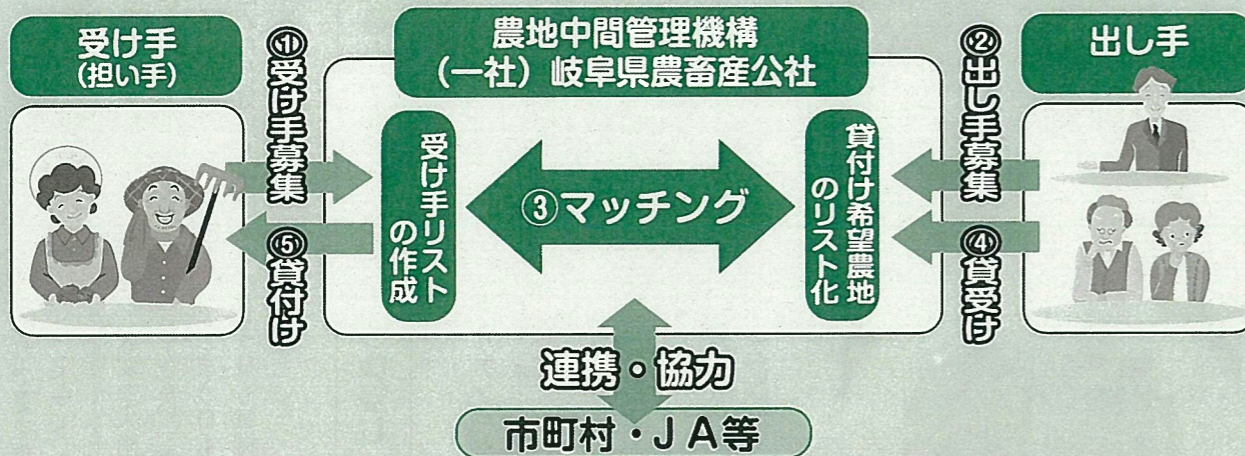
●耕作を続けることが難しく、農地を貸したいけど、知らない人に貸すのは不安…



●農地を借りて規模拡大したい…  
●農地を集約して経営を効率化したい…

そんなときは…

## 農地中間管理事業を活用しましょう！



- ①農地の借受け希望者（受け手）を募集します。（受け手リストを作成）
- ②農地の貸付け希望者（出し手）を募集します。（貸付け希望農地リストを作成）
- ③受け手・出し手の情報をマッチングします。
- ④受け手への貸し付けが見込める農地を借受けします。
- ⑤受け手がまとまりのある形で利用できるよう配慮し、貸付けします。

### 受け手のメリット

- 個々の所有者と交渉する必要がありません
- 契約更新や貸借料の支払いが一度にできます

### 出し手のメリット

- 公的な機関なので安心して農地を貸し付けることができます
- 受け手を探したり交渉したりする必要がなく、貸借料のやりとりなどの煩わしさもありません

通常、借りたい人、貸したい人が直接相手と話し合い、農地の貸し借りはおこなわれますが、相手が見つからないとお話は進みません。また、それぞれの貸し借りが個別に行われることにより、借り手ごとの耕作地が地域全体で見たときに固まらないこともあります。

この農地中間管理事業は、借り手、貸し手の情報を公的機関（岐阜県では一般社団法人岐阜県農畜産公社）が取りまとめることにより、面的にまとまった形での貸し借りが行われるよう仲介をおこなうものです。

事業を利用することによって、右のような協力が用意されています。

## 機構集積協力金

### (1) 地域に対する支援(地域集積協力金)

地域における話し合い(人・農地プラン)によって、まとまった農地を貸付けたとき、地域(※)に対して協力が金が支払われます。

#### 地域集積協力金

貸付けた割合 (地域の全農地比)	交付単価 (H26・27年度措置) 後部 ( ) 内は本来単価	協力の金の使途
2割以上5割以下	2.0万円/10a (1.0万円)	地域農業の発展のためであれば、自由に使用できる (あらかじめ市と地域で協議をします)
5割以上8割以下	2.8万円/10a (1.4万円)	
8割以上	3.6万円/10a (1.8万円)	

(※)「地域」の範囲は、大字、校区などの単位で、実際の話し合いがされた集団ごととなります。

### (2) 個々の出し手に対する支援(経営転換協力金・耕作者集積協力金)

事業(※)を活用して、10年以上農地を貸付けたとき、農地の出し手個人に対して協力が金が支払われます。

#### 経営転換協力金

貸付けた面積	交付単価
0.1ha以上0.5ha以下	30万円/戸
0.5ha超2.0ha以内	50万円/戸
2.0ha超	70万円/戸

#### 対象となる方

- ①農業部門縮小により、経営転換される農業者
- ②リタイアされる農業者
- ③農地の相続人であるが、農業経営はされない方

#### 耕作者集積協力金

交付単価 (H26・27年度措置) 後部 ( ) 内は本来単価
2.0万円/10a (0.5万円)

#### 対象となる方

- ①既に事業により貸借が成立している、又は受け手候補者が既に耕作している土地に隣接する農地の所有者
- ②2筆以上連続した農地を貸付けられる方

(※) 事業により、貸し借りのマッチングが成立したときに支援が受けられます。

細かな条件や手続き等については、下記までお問い合わせください。

本事業については、受け手の希望と出し手の希望を取りまとめて調整することで農地の集約を図るものですので、必ずしも貸し借りが成立するとは限りませんが、その場合でも地域ごとの農地動向の把握や、その他利用調整にもつながりますので、効率的な農地の利用、面的集約の一環としてご理解、ご協力をよろしくお願いします。

また、本たよりの1ページ目の記事にあります、「利用状況調査」を行った後の「利用意向調査」においても、遊休農地についてはほとんどの場合協力の金の対象にはならないものと見込まれますが、事業によるマッチングへの協力をお願いすることもあります。

### お問い合わせ先

- 農地中間管理事業について ●  
農地中間管理機構 (一社)岐阜県農畜産公社 TEL.058-215-6435 FAX.058-278-2686
- 機構集積協力金について ●  
下呂市役所 農務課 TEL.0576-52-2000 FAX.0576-52-1870

# まめなかな！農家訪問

足元からしっかりと 土台を大事に進みます

夏焼 福井 順也さん（二十六歳）

お祖父さんから繁殖牛農家の経営を受け継いで6年目を迎える福井さん。昨年には妻の有里さんと家族経営協定も結び、昼休みの時間には育児もできるだけ引き受けたりと、家庭と農業の両立に力を注いでいます。

「6年経って急ピッチではあつたけれど、やりたいう方法は確立できてきた。これからも経費削減や飼料のあんばいなど、1年ずつ、1日ずつやれることを【牛飼いは日々勉強】の気持ちで取り組んでいきたい。」と取り組みについて語っていただきました。家庭という土台あつての仕事という気持ち、足元を見つめ取り組む体勢を備えられた福井さん。若い農業担い手が近年頑張ってくれている上原地区の中で、その一人としてのご活躍が期待されます。

（松嶋光秋委員取材）



右より、順也(じゅんや)さん、蒼汰(そうた)ちゃん、有里(ゆり)さん。「我が家のアイドルのおかげで毎日笑顔が絶えません」とのこと。取材班も思わずつられてニコッリしてしまいました。

# 楽農楽食

これで夏を乗り切った  
(トマト・なす)

今年の夏は猛暑もあれば、大変な大雨もあり、人にとつても作物にとつても「しんどい」夏でした。そんな暑さで体がまいてしまいう日も、雨で押し込められ気持ちが沈んでしまう日も気持ちの切り替わる一品です。

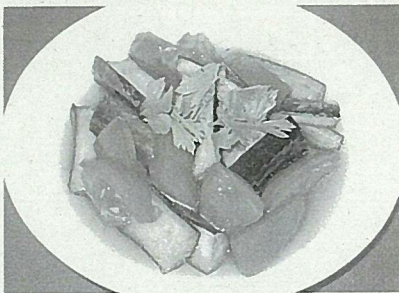
## ● トマトとなすのめんつゆ浸し

### ● 材料 (量は好みで)

トマト なす 青味(イタリアンパセリ・オクラ・シソなど) 市販のめんつゆ 酢(好みで)

### ● 作り方

- 1、ナスは4〜5センチ程度に切り、油で揚げる
- 2、トマトは1口大に切る(できれば種周りをとる)
- 3、青味は小さ目に切る
- 4、ナス・トマトを皿に合わせ、めんつゆと適量の酢をかけ、青味を上から散らす



(レシピ・作成例 中川恭子委員)

## 〈編集後記〉

今年は8月に入り毎日のように雨が降り、馬瀬では稲に病害が発生し、さらには17日に局地豪雨により冠水した水田が2haにも及びました。被害に遭われた方は高齢の方が多く、砂木の除去などの復旧が困難となっており、営農関係各団体にお集まりいただいて少しでも収穫できるよう支援をお願いしたところです。

今なお天候不順は続き、稲の生育も遅れ、収量減も心配です。農家の高齢化が進む中、こうした災害でより農地離れが起こらないか気がかりです。良い方策を考えなければと思います。(二村 明)

### ● 編集委員

・松嶋 光秋 ・高木 康則 ・林 忠和  
・日下部俊雄 ・二村 明

# 全国農業新聞



農家の経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。農業の時事問題解説に力を入れ、事例が豊富です!

農業者の視点でお届けします

週刊(金曜日発行) 月600円 年7,200円

(年間購読割引あり) お申込みは農業委員会まで